

街路樹

6月

授業の達人から学んでみませんか

特別支援教育 ～ 4つの要素 ～

「学力向上」は、学校教育最大の目標の一つです。それは知・徳・体の分野で「生きる力」として表現されています。

授業の達人と言われる先生は、授業の中で、思考力・判断力・表現力を育成するために、言語活動を駆使して、お互いの存在を大切にしながら、人間関係を含めて学力を向上させています。

昨年度末、筑波大学附属小学校で、第49回「算数授業研究」公開講座が行われました。セミナー形式の公開講座は、授業も講座も充実し、参加後に得られる満足感は大きいものでした。

今回は、2日目が細水保宏先生の退官記念「オール細水デー」と銘打って、丸一日細水ワールドに浸れる企画でした。

細水先生と言えば、本センターでも毎年のように講義をしてくださっている、算数で有名な授業の達人です。子どもたちが、必死に45分間考え続けるような授業を展開します。

「学力向上＝学習量×学習の質」と考えると、このように日々の授業の学習の質を高めることが一番効率的ではないでしょうか。細水先生は、指導案には無かった高いハードル問題を最初にもってきました。子どもたちが必死に発表し、細水先生の最後の授業に相応しい授業にしようとの思いが伝わってきて見ている私も涙が溢れそうでした。筑波の先生達の本音でぶつかり合う協議会の中でも「今日の授業は失敗だったのですか。」との意見が出るほどでした。その切り返して「うまくいかないのは失敗じゃない、次のステップにすれば成功なんですよ。」と答えた細水先生の向上心に脱帽です。

「授業力をつけるために、優れた授業の追試を数多くやりなさい。」と目標とする先輩（授業も達人、人柄も最高）から指導されました。その先輩との出会いは、私にとっての宝となっています。

今年も細水先生が本センターの「授業改善講座」の講師でいらっしやいます。全国の細水ファンが羨ましがれる最高の研修機会です。ちなみに、「筑波大学附属小学校の算数は『めあて』『まとめ』がないのですか。」と質問した方がいましたが、「まとめ」と黒板の右下に書いてないだけで、赤で板書した部分が「まとめ」だそうです！



研修調査係長 高崎 康行

新学年がスタートして3ヶ月。新しい生活にも慣れた子ども達がいる一方で、通常学級の中には集団に馴染めない子もいて、支援に苦勞されている先生方も少なくないと感じます。そのような子どもの心や行動を理解するための一つの手立てとして、子どもの行動要素から教師の働きかけを明らかにして支援する方法がありますので紹介します。

ウィリアム・グラッサー博士(2003)は行動には4つの要素があるとして、行動すること(行為)、考えること(思考)、感じること(感情)、身体(生理反応)で整理しています。これらはお互いに関係し合っているので4つの要素の1つが変わることで人間の行動が変わると考えられています。例えば、すぐにカッとなる子に対して、先生が「落ち着くまで隣の部屋で休もう」と話す時には「行動すること」の要素に働きかけ、「お互い嫌な思いをしたらどう？」と話したら「思考」に働きかけています。また、「嫌な気持ちになったんだね」と話しかけたら「感情」に働きかけたことになり、「落ち着くために深呼吸しよう」と話したら「身体」に働きかけています。先生方も普段からこれら4つの要素への働きかけをミックスして支援されているのではないのでしょうか。

その子に合った支援の仕方を見つけるために、4つの要素を意識した仮説を立てて働きかけ、検証することを繰り返すことで、新たな視点からのアプローチが可能となることと思います。

『日本教育』子どもの理解と心理教育的アセスメントより引用



教育相談部 ～ 就学指導の難しさ ～

今年度の教育相談では、特に小学2年生の相談が多くなっているように思われます。就学時健診が各学校で行われますが、就学指導の難しさが垣間見られます。

就学時健診で多少気になる場合でも、子どもの1年間の発達の様子を見て、その後に再度検討しましょうという場合があります。落ちつきがない、他の児童に迷惑をかける、授業に参加できない、学習内容が身に付いていないなど担任の目には『困ったちゃん』と映る子どもたち。

「ぼく、わたし、どうすればいいの？」という心の声に様々な応えが聞こえてきます。

担任の声、「耳を傾けてあげたいんだけど、人数が多くてね。」「耳を傾けてあげることができたらどんなにいいか。」等。

保護者の声、「ぜひ耳を傾けてほしい。」

「どうして耳を傾けられないの。」等。

困っているのは子どもたちです。子どもたちのためにみんなで知恵を絞りませんか。

